

**2**  
*Round*  
**APRIL 2010**

# RACING PRESS

**2010 AUTOBACS SUPER GT  
ROUND2 OKAYAMA GT 300KM RACE**



# 2010 SUPER GT Round 2 OKAYAMA



**2010 AUTOBACS SUPER GT  
ROUND 2 OKAYAMA GT 300KM RACE  
4/3-4**

# ニューホンダ HSV-010 初勝利

## 悪夢の鈴鹿から見事なポール to ウィン!!

# GT500

波乱の第1戦鈴鹿で開幕した、スーパーGTは第2戦を迎え舞台を岡山国際サーキットで行われた。HONDAがニューマシンをデビューさせた話題を集めたが鈴鹿ではポールを獲得したものの、決勝では大クラッシュで無念のリタイア。今回はそれを修復して見事に連続ポールを奪って見事に復活をみせた。

この岡山国際サーキットは全長3,703メートル、最大高低差が29メートルという中低速コーナーが多いテクニカルコース。前回の鈴鹿では500クラスのHIS-GTRがタイヤ無交換作戦で見事に優勝を飾っただけに各チーム共に無交換も選択肢に含んだレース展開が予想された。

## WINNER PIT



決勝は路面温度が30度を上回る好天気めぐまれ午後2時のスタートを迎えた。ホンダ陣営にとっては是が非でも優勝を果たしたい雪辱のレース。

ポールからウイダーHSVはスタートから飛び出し実に安定した走りを見せ、2位を走るZENTが4輪を交換したピット作業を見据えた上で、46週目にピットイン。予定通り4輪を交換してZENT、ペトロナスを押しさえ見事に鈴鹿の雪辱をポールツーウィンで優勝を飾った。



第1戦 鈴鹿での悪夢のクラッシュ

GT500				
1	18	Honda HSV-010	小暮卓史	ロイック・デュバル
2	38	LEXUS SC430	立川祐路	リチャード・ライアン
3	1	LEXUS SC430	脇坂寿一	アンドレ・ロッターラ
4	12	カルソニックIMPUL GT-R	松田次生	ロニー・クインタレッリ



残り4周の79周目に2位をキープしてたPETRONASがGT300クラスをパスする間にZENTが2位浮上を果たした。



2輪交換の奇製作戦にでたトムス、惜しくも3位に。

第1戦優勝のGTR日産はMOTULがリタイヤ。IPMULが4位、HISが12位と振るわなかった。



# RX-7の連勝を阻む!

# MOLAが完勝!

初のポールスタートとなったJLOCランボルギーニはスタートからMOLA ZさらにはカローラAxioを従えながら順調にラップを重ねトップで山西からトップでバトンを関口へと渡された。燃費の悪いマシンだけにピットストップタイムは約1分。ここで大きく後退を余儀なくされその間に雨宮7、MOLA Zがトップグループを形成。しかしトップを走行し2連勝を向う雨宮7が55周目のパイパーコーナで折り目がコースアウト。タイヤ無交換作戦の雨宮7が4輪交換作戦のMOLA Zの前に2連勝を阻まれた。2位には安定な走行で紫電が、そして3位には片側2輪のみのタイヤ交換を行った長谷見Zが入賞。ドライバーチェンジを早めに行った織戸はアクシデントに遭遇大きく後退して、手痛いノーポイントになった。JLOCランボルギーニは後半追い上げはお見事で、長谷見Zにも迫ったが4位でチェッカー。全く予想のつかない激戦GT300は今後も目がはなせられない。



# GT300



GT300スタート!



折目クラッシュ!!





第1戦の雪辱を晴らす2位の激走。



長谷見チームも2輪交換で3位。



### GT300 POLE POSITION



予選1回目トップの紫電を破り山西康司が1分31秒589をたたき出し初のポールを獲得。



### NEW MACHINE

昨年GT500にスポットで参戦したBDR9に変わり、イギリスの高級名車アストンマーチンヴァンテージが今季GT300に初参戦。V8・4.3リッターエンジンで最年長ベテランドライバーの松田秀士がステアリングを握る。タレントドライバー吉本大樹とコンビを組む。



#### GT300

1位	アップスタートMOLA Z	横溝直輝	安部 翼
2位	アップル・K-ONE・紫電	加藤寛規	浜口 弘
3位	HASEMI SPORT TOMICA Z	星野一樹	柳田真孝
4位	JLOCランボルギーニRG-3	山西康司	関口雄飛
13位	CINECITTA タイサンボルシェ	イゴールスシュコ	植田正幸